

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

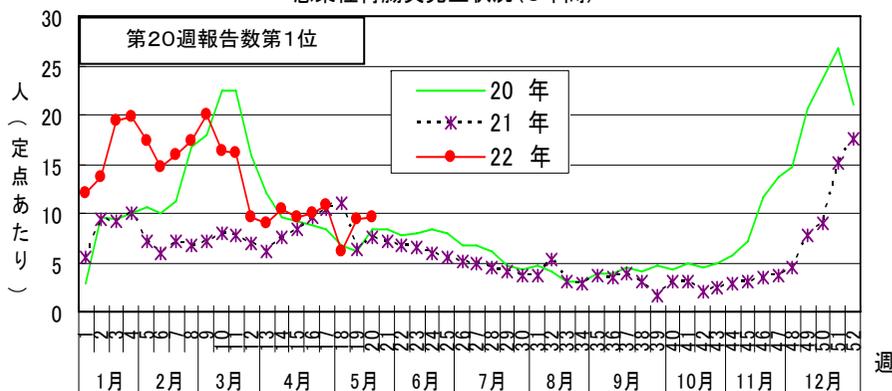
平成22年5月17日（月）～5月23日（日）〔平成22年第20週〕の感染症発生状況

第20週で報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘でした。

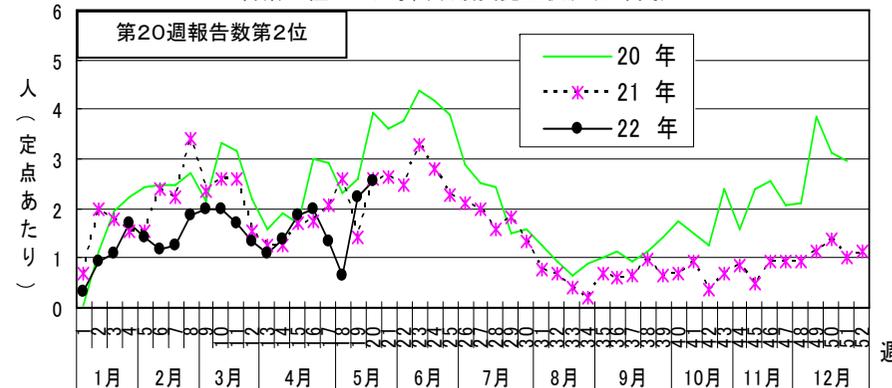
感染性胃腸炎が定点あたり9.69人と前週（9.34人）に比較して患者数はやや増加しております。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点あたり2.63人と前週（2.28人）に比較して増加しております。

中原区の定点医療機関から百日咳の報告が1件（平成21年10月第41週の報告以降初めて）ありました。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナに注意しましょう！！

グラフにあるとおり、全国的にまた川崎市内においても、例年よりも早く流行の兆しがみえています。過去10年間と比較しても、平成18年に次ぐ早さで患者数が増加しています。例年7月にピークを迎えるため、今後患者数が増加することが推測されます。ヘルパンギーナの発生動向に注意しましょう。

* 症状

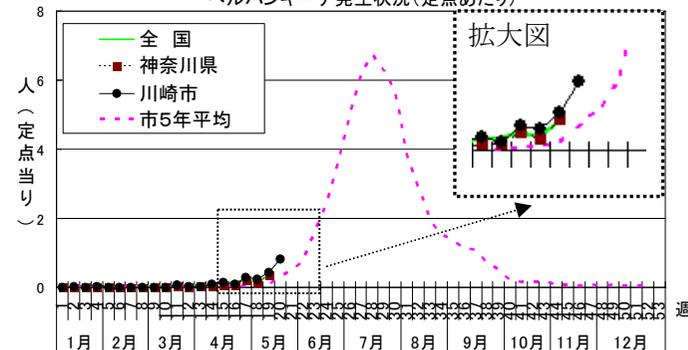
潜伏期間（2～4日）を経過した後、突然の発熱に続いて、のど（奥の方）に直径1～2mm、場合により大きいものでは5mmほどの水疱（みずぶくれ）が出現します。水疱はやがて破れ、浅い潰瘍となり、痛みをともないます。発熱については2～4日間程度で解熱します。のどの痛みのため、不機嫌、拒食、哺乳障害、それによる脱水症などを起こすことがあります。ほとんどは予後良好です。

～感染しないように

また感染させないように～

感染者のくしゃみやせきで飛び散った唾液や便などに含まれるウイルスによって感染します。見落としがちなのは、感染者が使ったタオルやコップ、またオムツの世話をした後の手などです。便については症状がおさまっても1ヶ月程度ウイルスの排泄が続くことがあるので注意しましょう。うがいや手洗いが重要です。

ヘルパンギーナ発生状況(定点あたり)



夏かぜって何だろう？

代表的なのが「ヘルパンギーナ」「手足口病」「咽頭結膜熱（プール熱）」です。ヘルパンギーナとプール熱は高い熱がでますが、手足口病は熱がほとんどなく、かわりに手足にブツブツができます。夏風邪にかかったら、ゆっくり体を休め、栄養や水分を十分に取らしましょう。点滴や解熱剤で症状をやわらげる方法もありますので、早めに休養し、かかりつけ医などの診察を受けましょう。

